

令和5年度 学校園評価(学校関係者評価)シート

学校名 加古川市立若宮小学校

1 学校教育目標 すこやかで、創造的に生きようとする児童の育成 ー進んで学ぶ子・仲よく助け合う子・最後までやりぬく子・元気にがんばる子ー

2 学校基本方針

- ①主体的に生きる力を育てる教育活動の実践
- ②心豊かな児童の育成
- ③自主性、根気強さ、自立心の育成
- ④自らきたえる、たくましい心身の育成
- ⑤信頼される教師としての資質向上
- ⑥家庭、地域との連携

3 志向する学校運営

- ①児童にとって ・学校は「未来を生きる礎を学ぶ場」であること
- ②保護者にとって ・学校は「安全・安心な信頼できる場」であること
- ③教職員にとって ・学校は「働きがいがあり協働の気風のある場」であること
- ④地域にとって ・学校は「まちづくりの拠点となる場」であること

評価基準

A:できている

B:だいたいできている

C:あまりできていない

D:できていない

E:わからない

※評価項目を評価願います。

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ(学校関係者評価)	達成状況
自ら学ぶ意欲を育てる 学習指導の充実	・生活科・総合的な学習の時間を核に、児童のやる気や主体性を引き出す指導の充実に努める。 ・授業の本時のめあてを児童とともに作り、授業を展開させていくなど、課題へのやる気を持たせる指導を充実させる。	A	・自分が好きなことや興味のあることに進んで取り組んでいけるような課題設定や授業づくりをさらに進める。	・積極的に授業に参加する姿がよく見られた。 ・環境整備がなされ、学びやすい雰囲気を作られている。学習したキーワードが掲示されるなど、わかりやすい授業づくりがなされていると感じた。 ・親が言わなくても、宿題をするようになった。	A
「生きる力」を育む総合的な学習の時間の充実	・SDGsの視点で年間カリキュラムを見直し、全校で共通したねらいを意識させた授業づくりを工夫するなど研究の充実を図る。 ・地域人材や外部講師を招聘したり、校外学習を行ったりするなど、体験活動の充実を図る。	A	・外部の専門家と連携や校外施設の活用を図り、児童の体験活動をさらに充実させる。 ・学年の重点目標やSDGsの視点を十分把握するとともに、児童自身がSDGsのめあてを知って、進んで学びに向かうようにする。	・6年生の「職業人と語ろう」では、自分の知らない仕事のことを学べたり、体験できたりしてよかった。 ・各学年に応じた体験活動等が充実していた。	A
心を育てる人権教育の推進	・わかみや人権週間などの取組も活用し、お互いを認め合う温かい集団づくりに努める。	A	・日常の授業や生活を大切に、日々の児童の実態に即した指導を心がける。 ・縦割り班活動や異学年交流を行うとともに、多様性を認め合える、居心地のよい集団づくりに努める。	・6年生と1年生との交流が復活して、とても喜んでいる。今後も継続してほしい。 ・普段からの取組の成果がでていて、先生と子どもたち、また、子どもたち同士の関係がとてもよく、居心地の良い環境ができていていると感じる。	A
自主的実践的な態度を育てる特別活動の推進	・児童会目標を決めさせたり、やってみたい活動を企画実行させたりするなど、児童会活動などの特別活動の充実に努める。 ・進んで係活動や委員会活動に取り組めるよう、年間計画を立てて、自主的に取り組ませる。	A	・全校的な取組として定着させていくために、年間を通して計画的に活動を推進していく。 ・各委員会や各学年で行っている活動の引き継ぎを確実にやっていく。	・委員会で劇をしたり、Meeetで委員会活動の紹介をしたりするなど、子どもたちが楽しそうに活動していた。 ・学校に来た時に、子どもたちがよくあいさつしてくれる。楽しく学校生活を送っていることがうかがえる。	A
たくましく生きぬく基礎体力づくり	・年間を通して、体力向上の取組を継続する。 ・進んで駆け足練習や縄跳び練習に取り組む。	A	・計画的に駆け足練習や縄跳び練習を行うことができた。業間休みや昼休み時間にも、進んで運動に取り組むように工夫する。	・体育が好きで喜んで運動している。 ・暑さ対策にも気を配りながら、工夫して取り組まれている。	A
専門性と実践的指導力の向上	・校内研究授業を計画し、相互に授業研究する体制をつくる。 ・chromebookの活用と協同的探究学習の充実による授業改善に努める。	B	・授業研究会以外にも、日常的な授業研究の機会をつくり意識を高め合う教職員集団を目指す。	・どの学年でもchromebookを使って授業がなされており、感心している。やる気をもって授業に臨んでいた。 ・教員の欠員をうめるべく、よくカバーしあっておられたが、人手がもっと必要であると感じた。 ・chromebookの家庭での活用方法について、もう少し詳しく周知してほしい。	A
学校教育への参加・啓発	・常に新しい学校情報を発信し、児童の様子や学校からのお知らせを伝え続ける。 ・シニアクラブと連携して、1年生の昔あそび、5年生のしめ縄づくり体験などを行う。 ・各種行事への参加および参観を広く周知する。	A	・保護者や地域の方々に直接、児童の様子を見ていただくことができるよう、さらに、参加の周知に努める。 ・HPやブログで学校の様子をタイムリーに伝え続ける。	・学校だよりやブログ等の情報発信を、タイムリーにされているので、学校のことがよくわかった。 ・シニアクラブ世代の者にとっても、子どもたちと関わることは、喜びややりがいになっており、力をもらっている。	A